

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870300690
法人名	医療法人 三善会
事業所名	グループホーム 丸の内はとぼっぼ
所在地	宇和島市 丸ノ内1-4-7
自己評価作成日	平成26年 7月 5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年7月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホームでの生活が楽しいと思っただき、笑顔で生活してもらえよう支援していきたいと思えます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>利用者全員での外出に力を入れて取り組んでおり、季節の花見やドライブに出かけられるよう支援されている。利用者は、外出時の外食も楽しみにしており、職員が前もってトイレや施設の様子を下調べして支援されている。利用者がイライラ、ソワソワして落ち着かない場合には、個別に外出して気分転換できるよう支援されている。</p> <p>毎日、職員は、利用者の様子を一行ずつ書くよう仕組みを作っており、毎月各ユニットでまとめて、便りと併せて家族に送付されている。</p> <p>9マスシートを用いて、すべての職員が利用者個々の「援助を必要としていること」の情報を探っており、その後、職員で話し合っって計画を作成されている。「100歳まで生きたい」「一日でも長く生きたい」等、暮らし方の希望がある利用者には、思いを大切に計画を作成されている。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム丸の内はとぼっぼ

(ユニット名) 白鳩

記入者(管理者)
氏名 清水 素美子

評価完了日 平成26年 7月 5日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 基本理念・ユニットの理念を掲示して、その人らしい生活ができるように職員で共有して支援に努めている。	
			(外部評価) 「お一人おひとりがその人らしく生活できるように支援します。」という事業所理念のもとに、職員は、「利用者には、介護してあげるのではなく、ご家族と一緒に生活していると感じられるような対応」を心がけたケアに取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会や地域行事に参加している。 近所の美容院にも協力してもらっている。 地域のお祭りのとき休憩所として利用してもらい入居者との交流もある。	
			(外部評価) 年1回、地域に向けて「はとぼっぼ便り」を発行しており、回覧板で回してもらっている。隣の神社の方が春祭りの餅まきの際に、餅を届けてくれたり、近所の教会の方が、礼拝後にお花や、収穫祭の野菜を子ども達と一緒に持って来てくれる。庭の草引きを地域の高齢者の方が手伝ってくれた際には、一緒におやつの時間を持たれた。外出時には、お誘いして一緒に出掛けて楽しむこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 自由に見学に来てもらって、アドバイスする事もある。 自治会の回覧にはとぼっぼ便りを入れてもらっている。 外出を定期的にする事で、地域の人達と関わりを持っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回開催し、ホームでの出来事・様子を報告し、地域の方家・族の方からの意見等を参考になっている。 自己評価の報告をしている。	
			(外部評価) 会議には、自治会長や民生委員、ご家族、他事業所職員、成年後見人の方等が出席されている。ご家族は、参加していただいけそうな方をピックアップして、毎月の送付書類に案内を同封されている。会議では、行事報告や利用状況、職員の異動について報告されている。地域の方から、地震時の避難についてアドバイスいただいたり、お祭り時の利用者のトイレのことについて、心配等して下さる発言もあった。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市の方に運営推進会議に参加していただいている。 分からないことがあれば相談している。 介護相談員の方の来所もある。	
			(外部評価) 運営推進会議時、市の担当者の方に介護保険についての説明をしていただいたことがある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束はしていない。また、日中は玄関の施錠をせずに自由に出入りできるよう支援している。	
			(外部評価) 転倒を繰り返す利用者には、見守りを強化し、センサーマットを使用しながら支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員の行動・言葉使い等気づいたら互いに注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度を利用している方がおられる。学ぶ機会があれば勉強したいと希望する職員もいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に出来るだけ説明をしてご理解いただいている。不安な事はそのつど説明・納得してもらうようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 来所時の対話から意見をいただいたり、外部評価での評価機関がアンケートを集計して配布してくれるのを自施設への意見と受け止めるように努めている。	ご家族とともに利用者を支えていけるよう、今後さらに、ご家族が事業所の取り組みにかかわるような機会作りや、ご家族同士の交流の場作り等もすすめてみてはどうだろうか。
			(外部評価) 毎日、職員は、利用者の様子を一行ずつ書くよう仕組みを作っており、毎月各ユニットでまとめて、便りと併せご家族に送付されている。利用者の所持金の使い方について、気になることがあれば、随時ご家族に報告されている。毎月の便りを楽しみにしているご家族から、「発行年月日を記載してほしい」との意見があり反映された。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 経営面との考えに違いはあるも、毎月のミーティング・ミニミーティングで出た意見を主任が管理者に報告し、管理者会議に持っていけるようにしている。	
			(外部評価) 自己評価は、職員個々に記入し、各ユニットのリーダーがまとめて作成された。事業所では、日勤、夜勤とそれぞれ別の職員が従事しており、朝晩のミーティングで情報を共有するようになっている。職員の研修受講後は、ミーティング時に内容を報告して共有されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 毎月の勤務状態を管理者会議で報告している。休憩もあり、希望休も取れスタッフ間でのシフト変更も可能	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 新人には見習い期間を設けている。ホーム・職員に必要な研修は受けられるようになっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 運営推進会議への参加・他施設との交流会があり、情報交換している。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に可能な方はお宅訪問をするなどしてご本人の要望をお聞きし、安心して入所いただけるよう関係作りに努めている。入所後も関わりを多く持ち話しに耳を傾けるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に話を聴く機会を設け不安・困りごとが解消できるよう、またホームを利用して安心してもらえるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 面接・自宅訪問時何に困っているかの情報収集を行い、その方に何が必要か、どのような支援を望まれるのかを見極め希望を取り入れるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活を一緒におこなっている中で人生の先輩としての意見をいろいろ教わりながら助け合っている。態度・言葉使いに気を配って家族に近い意識・家庭での生活を意識している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時近況を伝え、ご家族の方にホームでの困りごとを相談してアドバイスいただいている。ご本人とご家族の絆を大切にし関係が途切れないよう面会しやすい雰囲気作りに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 今までの人間関係・場所との関係が継続されるように馴染みの方に来ていただいたり、行きたい所へ行けるよう支援に努めている。 (外部評価) スーパーに買い物に出かけた時や、地域のお祭りに出かけるなど知人に会うこともあり、おしゃべり等されている。遠方に住むご家族が帰省された時には、ご自宅に帰る方もあるが、一族で会いに来られることもあり、居室でゆっくりお話できるよう、職員はお茶を用意して気を配っておられる。行きつけの近所の美容院を利用する際には、職員がお連れすると、帰りは美容院の方が送ってくださる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握して、孤立しないようお互いの関わりを大切にして協力し合えるよう見守っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院が長引き退所されても経過を見守る支援に努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) お一人おひとりの思い・希望の把握に努め出来る事を見つけて、話を聴きながらご本人の意向に副えるよう解決策を探っている。 (外部評価) 24時間シートで日々の生活の様子を記録しており、利用者の言葉をそのまま記載して思いや意向の把握に努めておられる。新聞やテレビを見て、利用者から「〇〇が食べたい」「あそこに行ってみたい」等の希望が出ることもあるようだ。事業所では、今後、地域のケーブルテレビを視聴できるようにして、馴染みのある場所や行事等を見ることで、思いや意向をさらに引き出していきたいと考えておられた。	利用者の生活歴について、ご家族に聞き取ることが難しいような方もあるようだ。日々のかかわりの中から得た利用者個々の情報を今後はさらに、利用者のその人らしい暮らしへの支援につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時の情報収集を職員で共有し、今までの生活を大きく転換する事がなく過ごしてもらえよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 24時間シートを記録して情報の共有をし、出来る事・したくない事など現状把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ミーティング・毎日のミニミーティング・シート利用でみんなの意見を反映させている。 本人の思いは日々の生活の中で、ご家族の思いは訪問時に聴くようにしている。	
			(外部評価) 9マスシートを用いて、すべての職員が利用者個々の「援助を必要としていること」の情報を探っており、その後、職員で話し合って計画を作成されている。「100歳まで生きたい」「一日でも長く生きたい」等、暮らし方の希望がある利用者には、思いを大切に計画を作成されている。3ヶ月ごとに、ご本人、ご家族等にも満足度と評価を聞き取り、モニタリングして見直しされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 24時間シート・申し送りノートやミーティングで情報を共有している。	
			(外部評価)	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 日々変化するご本人の生活状態・健康状態に応じて対応している。	
			(外部評価)	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域資源の把握に努め、他者とも交流で生活を楽んでもらえるよう支援している。 (幼稚園生との交流・散歩・神社へのお参り・スーパーへの買い物・3B体操・学生との交流・ピアノの先生の伴奏で皆と歌をうたったり、カラオケボランティアの訪問などを受けている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) ご本人・ご家族の希望を重視し、ご家族の協力を得て希望する医療を受けられるよう支援している。 ホームと契約している医療機関を受診される方もいる。	
			(外部評価) 以前からのかかりつけ医への受診は、ご家族に通院介助をお願いされている。利用者の状態によっては、送迎は事業所で行うケースもある。利用者の希望で、健康診断を受けられるよう支援されている。協力医には、24時間対応で、電話で指示を仰ぐこともある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) バイタルチェックや日々の心身状態観察で異常の早期発見に努め看護師・職員間で情報を共有し、医院との連絡指示をもらっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) ホームでの暮らしなどを伝え、またお見舞い時など情報を交換し退院後も安心して生活が出来るように努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入院時にホームで出来る事出来ない事を話し合い、重度化が予測されたり、重度化してきた時など折りにふれ話し合う機会を設けている。	
			(外部評価) 入居時、看取りの指針に沿って説明されるが、ご家族は、「まだまだ先の事」と捉えている方も多そうだ。利用者には、日々の会話の中で聞き取ることもあり、「最後はどこで」と聞くと「ここで」と答えられるような利用者もある。ご家族から「延命治療せず、事業所で最期まで」と希望があり、看取りを支援した事例がある。ご家族の許可を得て、居間の和室スペースで過ごしてもらい、利用者、職員が声かけしながら看取られた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に救命救急の講習を受けている。 急変時看護師と相談し医院への連絡を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練実施し消火器の使用方法も学んでいる。 職員間での連絡網を作成している。	東日本大震災後、自治会主催の防災訓練に参加されたが、地域での継続した取り組みにはつながっていないようだ。事業所も地域の資源として、地域と協力し合い、いざという時に助け合えるような体制作りをすすめていかれてほしい。
			(外部評価) 避難訓練は年2回、夜間を想定して行っており、内1回は消防署の方にも協力をいただき、又、運営推進会議に参加している民生委員や自治会長、ボランティアの方に見学していただいた。さらに、夜勤職員が居室から利用者をひとりで避難させ、その様子を、日勤帯の職員で見学された。津波を想定した訓練時には、1階ユニットで車いすを使用する利用者を、階段を使って2階まで避難させる体験をされた。災害時には、別の場所にある系列事業所へ避難できるような体制を作っている。新たに、居間の和室スペースに利用者の人数分の防災用ヘルメットを準備されていた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシーの確保は難しい事もあるが、他者の前での声かけ・誘導は人格を尊重し尊厳を傷つけない対応を心がけ互いに注意している。	
			(外部評価) 利用者について外部者からの問い合わせには応じないようにして、個々のプライバシーの保護に努めておられる。又、台所に貼ってある排泄記録票は、利用者の名前を表記せず番号でわかるようにしていた。職員は利用者とは話す際には、友だち言葉にならないよう心がけておられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入浴時の衣類・外出など声かけして本人に決めてもらっている。希望など思いを表せない方には、思いを組みとったり、雰囲気・声かけなどの言動に注意している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	入居者の思いや希望が職員の都合などに優先されないよう一日のリズムの組み立てを行うようにしている。 希望が分からない時は職員の都合で行なっている時もある。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価)	希望に応じた見なしだみに気を配り、重ね着など着すぎないようにしている。 カットも様子を見て支援している。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	お誕生日には好きな物を作って食べていただき、一緒に手伝ってもらえる方には食器洗い・テーブル拭きなど手伝っていただいている。気になられる方には作っている途中メニューを伝えたりしている。
			(外部評価)	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価)	食事量が少ない方は量を確認して記録し定期的に体重測定を行っている。 月一回カロリー計算を行っている。 お茶など介助にて水分を摂ってもらうようにしている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価)	自立の方には声かけ、必要な方には誘導・介助を行っている。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) トイレでの排泄を目標として支援している。排泄パターンを把握し、タイミングを逃さないようにして排泄の失敗を減らす支援に努めている。</p> <p>(外部評価) 車いすを使用する利用者也トイレで排便できるよう支援されている。声かけの必要な利用者は、職員から見える場所に排泄記録を置き、時間や頻度を見ながら声をかけたり、水分摂取を促しながら支援されている。トイレの場所がわからなくなる方もおり、トイレ、便所と表記を変えて表示されている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 下剤を服用している方も多いが、なるべく薬に頼らず自然排便できるよう水分補給を多くして、野菜摂取に努めている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 行事や買い物があるためどうしても職員の都合となることが多い。(特に全介助の方は)体調の把握に努め気持ちよく入浴してもらえよう心がけている。</p> <p>(外部評価) 2日に1回、入浴できるよう支援されている。午後から活動する時間を作って、現在は、午前中が入浴時間になっている。職員の見守りでひとりで入浴する方もおられ、シャンプーには「あたま」と大きな文字で示し、利用者がわかるようにされていた。自分専用の石鹸を使用している方もおられる。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 夜間休めず日中うとうとされる方には散歩・買い物・日光浴にお誘いする。眠る時間を決めずに夜勤帯にはその方に関わりもしてもらっている。自由にお部屋で休んでもつらったり、リビングのソファで休まれたりしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬表を作成しており、全スタッフが目的・副作用・用法・用量などを分かるようにしている。 変更があれば、その度申し送りノート記載するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物のハンガー掛け・台拭き・新聞折りなど持たれている力に応じての役割がある。 外出は楽しみにされていて、ドライブや買い物などにお連れする。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出が好きな方には一緒に買い物にいていただいている。 必要な物がある方にはいつもと言うわけにはいかないが、なるべく希望に副うようにしている。 (外部評価) 利用者全員での外出に力を入れて取り組んでおり、季節の花見やドライブに出かけられるよう支援されている。利用者は、外出時の外食も楽しみにしており、職員が前もってトイレや施設の様子を調べして支援されている。利用者がイライラ、ソワソワして落ち着かない場合には、個別に外出して気分転換できるよう支援されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) まだ自己管理が出来る方は持っておられ、出来ない方はご家族と相談してホームで預かっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は自由にしてもらっているが、頻回にかけられる方には「さっきかけました」と声かけする事もある。 書ける方は手紙の返事を出されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の分かる物を飾るようにしている。 照明・TVのボリュームに配慮したり、室温の調整・換気を行っている。	
			(外部評価) 玄関には七夕飾りが飾られ、ベランダには、高等学校の生徒が持って来てくれた鉢植えのミニトマトが実を付けていた。2階ユニットでは、現在、転倒が気になる利用者は和室で休めるよう支援されていた。壁には、高校野球の組み合わせ表や、利用者の歩行訓練の記録が貼られていた。冬場はウッドデッキで日向ぼっこすることもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 和室やソファで座ってお話されたり、ご自分の席で過ごされている方もいる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた物・好みの物を持って来られている方がいる。 ベッド・タンス等その方に応じて配置をがえている。	
			(外部評価) タンスとベッドは事業所で準備をされるが、ご自宅からベッドを持って来られる方もある。タンスの前には、利用者が座って出し入れが出来る位置に、椅子を置いておられた。プロ野球の好きな利用者は、ご家族が持ってこられた球団のカレンダーを壁に貼り、職員が番組予約をしてテレビで野球観戦を楽しまれている。ご自分の洗濯物をタオルハンガーにご自身で掛けて、窓手すりのスペースに出して干す利用者もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレなど貼り紙をして分かるようにしている。 リビングに日めくりカレンダーをかけて、めくってもらっている。	